



シスコのゲートウェイの削除

削除するレコードを探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。Cisco Unified CallManager データベースからゲートウェイのグループを削除する手順は、次のとおりです。

[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)] ウィンドウでは、Cisco VG200 ゲートウェイと Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイのみを削除できます。

シスコのゲートウェイの削除

Cisco Unified CallManager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Bulk Administration > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイの削除] の順に選択します。

[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [DN/ ルートパターン]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]

ステップ 3 2 番目の [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索基準を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[表示] を選択して関連のエンドポイントを表示します。

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 6 複数のフィルタを追加するには、AND または OR を選択します。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]

- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 8 Job Information 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 Run Immediately オプション ボタンをクリックしてゲートウェイを即座に削除するか、Run Later をクリックして後で削除します。

ステップ 10 [送信] をクリックして、ゲートウェイ レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 11 Bulk Administration メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 51 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.54-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのゲートウェイ レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

その他の項目

詳細については、[P.45-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- シスコのゲートウェイの削除 (P.45-2)
- Cisco Unified CallManager へのゲートウェイの挿入 (P.44-6)
- ジョブのスケジュール (P.51-1)
- BAT ログ ファイル (P.54-4)

■ 関連項目